

荷主庭先のムダをなくす



健康診断のすすめ



岡 卓也氏

契約のない付帯作業をなくすには、会社がドライバーの「標準作業」を決めてあげることが大切になる。例えば、トラックに積み降ろしの際、どのくらいかかるかといった目安はあるはず。会社が積み込みから作業終了までのフォーマットをつくり、ドライバーに書き込ませる。作業時間を明確にすることで、課題となる待ち時間の「グリーンゾーン」に対応できる。



課題解決は提案から

後編

トラックにとって最大のムダとなる待ちと付帯作業。荷主だけでなく、ドライバーにも「ムダロス」との意識がないケースも。日本能率協会コンサルティングの岡卓也氏は、トラック事業者が荷主庭先のロスを見える化する「健康診断」を行い、解決の提案につなげるべきとする。

(文責・小林 孝博)

ならない。何度も繰り返す重要な業務はあくまで車上で、それが原則。荷主都合で急がなければならない。あらかじめ正確な情報を渡し、(作業の)効率化を図るにはパレット化が重要になる。パレットを使うと積載率は落ちるが、荷役や作業効率を考えるとパレット化は欠かせない。

パレット化の推進も必要に

拠点間輸送で、作業の効率化を図るにはパレット化が重要になる。パレットを使うと積載率は落ちるが、荷役や作業効率を考えるとパレット化は欠かせない。

ムダロスの意識共有重要

残念なことには、いまの荷主には「ムダロス」という考えが十分ではない。ドライバーの側も荷待ち、積み降ろしの手伝いを当然と思いついて、互いに「何かロスか」を考へるべきだろう。

(連載終わり)

何種類かに色分けして通い箱のように活用。「この色はこの倉庫」といった方法を決め、パレット化を推進している。スループットの積み替え拠点でパレットを積極的に活用するメーカーもある。

荷待ち、付帯作業をなくすには、まず大手荷主が主導していくことが

岡 卓也氏(おか・たくや) 昭和48年3月15日生まれ、42歳。大阪府出身。法大卒。平成18年日本能率協会コンサルティング入社。以来、一貫して生産・ロジスティクス領域でのコンサルティング、セミナー、研修講師として第一線で活躍。